

令和2年度 第2回 ナザレ園サポート24 常陸太田
(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)介護・医療連携推進会議

議 題

- ① 事業報告(実績)
- ② サービスにおける自己評価・外部評価について
- ③ その他
- ④ 次回開催日：令和3年10月開催予定

令和2年10月～令和2年3月までの事業報告（実績）

10月 【16件】

新規 なし

利用休止

- ・女性 80代（要介護5） 老夫婦世帯
近隣に在住の子供たちの定期的な訪問あり。
訪問診療 訪問看護 訪問リハビリと在宅サービスは充実。
同居のご主人（軽度認知症）の介護疲れや夫婦間での喧嘩が多くなりお互いに精神的ストレスがありご主人からの暴言などもみられた。訪問診療ドクター判断にてレスパイト入院（※）。

※レスパイト入院

在宅で介護をされているご家族の肉体的・精神的介護疲れの軽減を目的とした一時入院。

11月 【18件】

新規

- ・女性 70代（要介護1） 認知症あり
毎日デイ利用（+お泊りデイ）していたが入院中の夫の退院が近くなり在宅へ戻る準備として週1回自宅での生活を開始。
在宅中の安否確認・服薬管理・買物などで訪問開始

利用再開

- ・女性 80代（要介護5）
レスパイト入院より退院

12月 【21件】

新規

- ・男性 80代（要介護1） 老夫婦世帯
服薬確認・安否確認で利用開始。
- ・女性 80代（要介護1） 独居
R2年3月～訪問介護（週1回の身体介護） ➡入院 ➡老健
➡定期巡回となる。
- ・男性 80代（要介護1） 老夫婦世帯
R2年5月～訪問介護（週2回の身体介護） ➡失禁や転倒が多くなり身体介護・安否確認も兼ね利用開始。

利用停止

- ・女性 70代（要介護1）
入院中の夫が退院され定期巡回⇒訪問介護（週1回生活介護）に変更。
- ・男性 80代（要介護1）独居
心・腎機能低下により救急搬送され入院⇒老健入所。

1月 【20件】

新規

- ・女性 80代（要介護1）独居 12月開始の男性の妻
入院前は他事業所の訪問介護を利用。
病院から退院され、夫と一緒に施設入所予定であったが頑なに拒否。
独居となったため、身体介護・安否確認で利用開始。

利用停止

- ・男性 80代（要介護1）1月開始の女性の夫
妻が入院され独居。デイ利用（+お泊りデイ）妻退院後も
そのままデイ利用にて中止⇒サ高住入所予定。

2月 【22件】

新規

- ・女性 70代（要介護1）同一敷地内別居（日中独居）
家族が介護をしているが新規利用者様に威圧的な態度がみられる。
身体介護・服薬確認・安否確認で利用開始。
- ・男性 70代（要介護1）老夫婦世帯 妻は定期巡回利用中
R2年5月から訪問介護（週1回生活介護）⇒服薬確認・安否確認で
利用開始。

新規／利用中止

- ・女性 70代（要介護5）独居
老健より帰宅され利用開始4日で体調不良にて入院。

利用終了

- ・男性 90代（要介護2）家族同居
昔から自己中心的、要介護状態になる前は家族へ手を挙げるなどの
暴力がみられた。
子供たちとも関係性が悪く子供たちは非協力的。
間接的関与のみ高齢の妻が介護していた。
R1年6月～利用開始。当初訪問拒否・介護拒否がみられたが徐々に
受け入れてくださり、ヘルパーとの会話を楽しみにしている様子。
R3年1月頃より体調悪化 2月中旬頃より看取り開始。
2月末昇天され終了。

3月 【22件】

- 新規
- ・男性 80代（要介護1） R1年11月～訪問介護⇒定期巡回
 - ・女性 80代（要介護2） R1年8月～訪問介護⇒定期巡回
- 老夫婦世帯 夫は腰痛酷くなりほぼベッド上で生活
妻は認知機能低下し2人での生活困難となり利用開始

- *その他 水府地区1件・里美地区1件・太田地区1件・金砂郷地区1件の訪問依頼があった。
- 水府・里美地区は訪問距離の問題、太田地区は訪問時間の確保が困難、金砂郷地区は同一敷地内別居の家族がいるが生活全般（家政婦のような対応）の依頼がありケアマネより定期巡回のサービスの使い方を説明していただき、現サービス（小規模多機能利用）継続でお断りするケースがあった。
- また、現在入院中の方2名の退院後のサービスを検討中の依頼があった。

*令和2年度 10月から3月までの新規契約者 10件

令和2年度新規契約 合計 19件

*事故・苦情 報告 0件

利用者の支援において介護の協力が得られないなど、家族に関して対応が難しいケースがあった。この場合、個人的要因・環境的要因・支援者側による要因、この3つの視点で原因や背景を考える必要があり、家族の協力が得られないことに関しても、家族がどこまで協力ができるのか？何故できないのか？などを把握せずに家族に対し一方的な判断をしてしまっただけでは解決の糸口を見出すことはできないと思った。時間をかけて家族との信頼関係を築き家族を第二の支援者と考え、家族と共に利用者の生活をどのように支援していけば良いかを丁寧に進めていく重要性を再認識した。